

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

心理動詞の格助詞に関する誤用表現の分析 —主に情感動詞について—

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 神戸市外国語大学大学院外国語学研究科博士課程文化交 流専攻 公開日: 2025-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 姫 秉伸 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2000177

心理動詞の格助詞に関する誤用表現の分析

—主に情感動詞について

姫 秉伸

要旨

本研究では、中国語を母語とする日本語学習者における情感動詞の格助詞誤用を分析した。『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.12を用いて、特に「が」「を」「に」の混同誤用に焦点を当てた。結果、「が→を」「に→を」の混同が多発し、特に心理動詞において誤用が顕著であることが判明した。また、教材の教授方法が「対象+が+形容詞」パターンを強調しているため、「が」の過剰一般化が見られることも明らかになった。さらに、中国語の語順と格助詞の関係が、誤用の原因となっていることが示唆された。誤用例の詳細な分析を通じて、学習者がどのように格助詞を混同しやすいかを明確にし、具体的な教育方法の開発が必要であることを強調した。

1. はじめに

中国語を母語とする日本語学習者が心理動詞を使用する際には、数多くの誤用が見られ、その中でも格助詞の誤用が大きな問題とされている。また、格助詞「が」「を」「に」の誤用に関する研究は多く存在するが、心理動詞に関する誤用表現の分析はそれほど多く行われていない。

(1) 私はこの清らかな愛情（が→に）感動しました。

(我对这份纯洁的爱情感动不已。)

(学部1年生(下) / 学習歴1年 / 滞日0 / 作文)

(2) 国民は穏やかな生活をして、現状（を→に）満足している。

(国民过着平静的生活，对现状感到满意。)

(学部4年生 / 学習歴3年半 / 滞日0 / 卒論)

(3) ちは「ほんとうにおかしいね。猫がぜんぜん犬（に→を）怖がっていない。」と私に言いました。

(爸爸对我说：“真是奇怪啊，猫一点也不怕狗。”)

(学部1年生 / 学習歴1年 / 滞日0)

上記の例に示したように、「感動する」、「満足する」、「怖がる」はいずれも心理動詞である。これらの動詞に関する格助詞「が」「を」「に」の混同の誤用は、頻繁に産出しやすい傾向にある。

本稿では、『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.12の誤用例を研究対象にし、心理動詞に関する格助詞の誤用表現について検討する。『YUK コーパス』のデータによって、まず、中国語の心理動詞と日本語の心理動詞の特徴を比較し、日中両語のテンス・アスペクト表現について分析を行う。また、中国語の「対～(感到)+心理動詞」というパターンと複合格助詞が中国語を母語とする日本語学習者に与える影響を考察する。最後、教材書の不備及び母語の負の転移についても検討する。その調査結果によって、中国語を母語とする日本語学習者が情感動詞を使用する際に頻出する格助詞の誤用の要因を明らかにすることを目指している。

本稿では「心理動詞」という名称を用いるが、日本語学では感情動詞(山岡1999)、内的情態動詞(工藤1995)などと呼ばれることもある。また、山岡(1999)は感情動詞を三つに分類しており、その中の「情意動詞」は工藤(1995)が内的情態動詞に分類している「感情動詞」と同じものである。本稿では、中国人学習者に理解しやすくするために、山岡(1995)の情意動詞の分類方法で、程度副詞で修飾でき、かつ、身体部分をガ格で表現できない動詞を「情感動詞」と呼ぶことにする。例えば、尊敬する、感動する、喜ぶなどの動詞である。

本稿では主に「情感動詞」に関する誤用表現を検討する。工藤(1995)の分類方法によって分けられている思考動詞、感覚動詞、知覚動詞については、紙幅の関係上、今回は分析を行わない。

2. 先行研究

『日語格助詞的偏誤研究上』(2017)では、情感動詞に関する格助詞の誤用分析が数多くある。

于一乐(2017:31)は怖がると中国語の“怕”を比較し、分析を行った。しかし、この研究結果は、「怖がる」が「X1が+X2を+能動的感情の動き」というパンターにあい、意味が近い形容詞「怖い」と混同になる原因を述べているだけである。

苞山(2017:59)は「NPに+感情動詞」と「NPを+感情動詞」の動詞は可能形でも、感情動詞の意味に支配されるため、格助詞「が」を使えず、「を」あるいは「に」を用いるべきだと指摘されている。

黄毅燕(2017:119)は述語が心理動詞の場合で、格助詞「を」と「に」を同

時に使える場合では、助詞の選択に関する条件は大まかに以下の通りである。主体が弱く、意外性や誘因があり、予測や予見性がない場合は「に」が使われ、「を」は使われない。主体が強く、予測や予見性があり、意外性や誘因がない場合は「を」が使われ、「に」は使われないと述べられている。

高山 (2017:122) 「感謝する」という心理動詞は述語として用いられる場合では、感謝する対象を表す格助詞の選択する条件は三つある。

- ①感謝対象が具体的な事物 (特に人) の場合、「に」を使用し、「を」は使用しない。
- ②感謝対象が抽象的な事物の場合、「を」を使い、「に」は使用しない。
- ③感謝対象が親密で主観的な場合、「に」を用い、客観的で距離がある場合、「を」を使用するということが指摘されている。

上記の先行研究は中国語を母語とする日本語学習者は心理動詞を用いる際に誤用に判定される理由を詳細的に説明されているものである。しかし、中国語を母語とする日本語学習者がどのようにして誤用を引き起こすか、その原因については、言及されていない。ただ于一乐 (2017:31) の研究では、「怖がる」と「怖い」の意味が近いから、混同になることを言及している。そのため、先行研究の結果に基づき、誤用を引き起こす要因を考察する必要がある。

3. 中国語と日本語は情感動詞に関する差異

周知のとおり、日本語と中国語には「心理動詞」という分類に属する動詞が存在する。工藤 (1995) は、情意動詞を判定するテストの一つとして、程度副詞 (例: とても) で修飾されるかどうかを用いている。中国語にも、「很 (とても)」という程度副詞と共起する動詞を心理動詞と判定するテストがある。

王紅斌 (1998) によると、絶対程度副詞¹と心理動詞の組み合わせの割合は、

¹ 王力 (1933) は、意味に基づいて程度副詞を「相対程度副詞」と「絶対程度副詞」に分類している。また、馬真 (1988) は、構造の観点から王力の分類を証明した。

絶対程度副詞には、例えば「很 (とても)」、「非常 (非常に)」、「十分 (十分に)」、「挺 (かなり)」、「怪 (かなり)」、「相当 (相当)」、「有些 (やや)」、「有点 (少し)」、「不大 (あまり)」、「不太 (あまり)」、「太 (とても) などがある。

相対程度副詞には、「最 (最も)」、「頂 (最高に)」、「更 (さらに)」、「更加 (さらに)」、「越发 (いっそう)」、「愈加 (ますます)」、「比较 (比較的)」、「还 (まだ)」、「还2 (さらに)」、「稍 (少し)」、「稍微 (少し)」、「略 (やや)」、「多少 (多少) などが含ま

82 個の心理動詞が絶対程度副詞で修飾される状況を次の表に示している。

表 1 王紅斌 (1998:66) 絶対程度副詞が修飾する心理動詞の割合

絶対程度副詞	不太	有点	有些	相当	怪	非常	很	太
搭配百分比	36%	46%	21%	40%	39%	62%	100%	70%

以上の内容によって、日本語と中国語の両言語には心理動詞に関する類似性があることがわかった。しかし、異なる点も存在する。以下に詳しく分析を行う。

3.1 テンス・アスペクト表現についての差異

工藤 (1995) は、「スル (シタ) とシテイル (シテイタ) は、単純に、継続性の有無だけで対立しているとは言い難い。三人称の場合には、スル (シタ) は、基本的に使えないのである。」という心理動詞の特徴を指摘している。

- (4a) わたし、あの時、驚きました。
 (4b) あの時は、先生も、驚いていました。
 (4c) わたし、父は死ぬと思うわ。
 (4d) 父は、死ぬと思っているわ。 (工藤 1995:70)
 (4a') 我，那个时候，很吃惊。
 (4b') 那个时候，老师也很吃惊。
 (4c') 我觉得爸爸会死。
 (4d') 爸爸觉得自己会死。 (筆者訳)

上記の例からみると、日本語の心理動詞のアスペクトは人称によって、アスペクトの表現が異なる。一方、中国語の心理動詞では、一人称でも三人称でも、同じ形で表現されている。また、日本語は程度副詞を使わなくても、中国語の心理動詞の前に程度副詞が用いるべきである。

更に、中国語の「了」¹⁾と日本語の「た」について、張 (2023) は、中国語の

れる。

意味的には、絶対程度副詞は、独立的に程度を示す (1)。これに対して、相対程度副詞は、比較を通じて程度を表す (2)。

- (1) 这些经验都十分宝贵。 (これらの経験はどれも非常に貴重だ。)
 (2) 小张今年比去年学习更努力了。 (張さんは今年、去年よりさらに一生懸命勉強している)

“了_i”がアスペクト助詞であり、動作や行為の「完了」を表すと述べている。この完了した動作や行為は過去に行われたものであるため、“了_i”は日中対訳において「た」と対応することが多いとされている。“了_i”を伴う動詞は動作性をもたなければならない、すなわち、“了_i”の使用対象は動作動詞に限られると指摘されている。心理動詞、特に情感動詞は、動作性を持っていないため、動詞の後ろに“了_i”を付けるのは不自然であると考えられる。

(5a) 私は日本に七年住んでいた。(筆者)

(我在日本住了七年。)

(5b) この頃エリスとボスコリは、互いに顔を見るのも嫌がっていた。

(レジーナ・エシェヴェヒア『台風エリス』)

(最近, エリス和博斯科里互相看对方都觉得讨厌。)

(? 最近, エリス和博斯科里互相看对方都觉得讨厌了。)

3.2 心理動詞と心理形容詞

寺村(1982)は、感情表現には動詞表現と形容詞表現の2種類があると指摘されている。以下の図は寺村が感情表現についてまとめているものである。

表2 寺村(1982:139)における感情表現に関する分類

感情表現					
動詞表現			形容詞表現		
～スル	(物音ニ)オドロク	(～ヲ)カナシム	(～ガ)コワイ	(～ガ)オソロシイ	(～ガ)丸イ
(動作・出来事)	一時的な気の動き	(能動的な感情の動き)	(感情状態の直接表出)	(感情的判断)	(属性規定)

動的 ←

→ 状态的

客観的描写 ←

→ 主観的描写

上記の先行研究によって、日本語では心理動詞と心理形容詞という二つの表現があることがわかった。一方、中国語で心理活動を表す述語はほぼ動詞とみられている。

(6a) 害怕 ⇔ 怖がる/怖い

(6b) 台風は怖い(怖がる)。

(筆者)

台风很可怕。

(7a) 佩服⇔感心だ/感心する。

(7b) 王さんは感心だなあ(感心する)。(筆者)

小王真让人佩服啊。

日本語と中国語における感情表現には、類似点と相違点が存在する。両言語には心理動詞があり、程度副詞と共起する点で類似しているが、アスペクト表現や人称による違いが明らかにされている。日本語では、心理動詞と心理形容詞の両方を用いて感情を表現することが可能であり、表現形式が多様である。一方、中国語では、感情を表す際に動詞が中心的な役割を果たしている。この違いは、両言語における感情表現のオリジナリティを示しており、日本語教育においてもこれらの点を考慮した指導が必要であると考えられる。

4. コーパスの調査について

周知のとおり、中国語には格助詞の概念が存在しないため、格助詞を使いこなすことが非常に困難である。特に、情感動詞の格助詞の使用は他の動詞よりもさらに難しいため、情感動詞に関する格助詞の誤用が頻繁に発生する要因と予想される。また、日本語の心理表現には動詞と形容詞の2つの表現があり、中国の学習者はどの表現を選択するべきか、どの格助詞が正しいかについて戸惑うことが多い。そのため、この節ではコーパスの誤用例を取り上げ、誤用の要因を考察する。

日中両言語の心理動詞には、さらに多くの差異が存在する。例えば、中国語の心理動詞は副詞としても使えるが、日本語の心理動詞には副詞の用法がなく、意味面でも違いがある。しかし、これらの相違点は格助詞の誤用との関係がそれほど大きくないため、本稿ではこれ以上言及しない。

4.1 コーパスの概要

『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.12の概要

このコーパスは、中国語を母語とする日本語学習者の作文を対象とした大規模なデータセットである。以下、その内容を整理して説明する。

基本情報：ファイル数: 5,044、総文字数: 約 660 万字、誤用タグ数: 延べ 22 万件

データの内容

中国全国 56 校の大学から収集された学部生、大学院生、日本語教員による日本語作文を含む。対象はすべて中国語を母語とする学習者の作文であり、他言

話者のデータは含まれていない。

日本語学習歴の幅

学習歴や使用歴は3ヶ月から38年までの幅広い期間にわたり、初心者から上級者まで多様な日本語能力の変化や誤用傾向を分析することが可能である。

添削のプロセス

各作文は、日本語教育経験者または日本語教師である2名の日本語母語話者が添削を担当する。2名体制での添削により、誤用の指摘がより正確になり、信頼性の高いデータを提供している。

誤用例の抽出

対象:格助詞「が」「を」「に」に関する誤用。

方法:コーパス内の全誤用タグを対象に、「が」「を」「に」の誤用例をすべて抽出する。

抽出された誤用例を手動で検証し、精度を確保する。

抽出した誤用例を以下のカテゴリごとに分類し、誤用数を記録する。

混同誤用: 正しい助詞と他の助詞が混同されるパターン。

具体的な混同パターン:

「が→を」「が→に」「に→を」「に→が」「を→に」「を→が」

本稿で用いるコーパスのデータがかなり多いため、助詞の付加、語形成や脱落の誤用現象は紙幅の制約があるため、研究しない。また、コーパスの方に誤用のデータしか得られないから、誤用の例だけで分析を行う。

4.2 各混同パターンの誤用分析

表3 格助詞誤用分析: 心理動詞と情感動詞の使用実態

誤用パターン	誤用数	心理動詞に関する誤用数	割合	情感動詞に関する誤用数	割合
が→を	804	186	23.13%	18	9.68%
が→に	276	48	17.39%	24	50%
に→を	498	110	22.08%	67	60.9%
に→が	170	18	10.58%	10	55.56%
を→が	774	98	12.66%	5	5.1%

を→に	944	153	16.2%	87	56.86%
-----	-----	-----	-------	----	--------

上の表は、6つの混同パターンにおける誤用数と、情感動詞の誤用数および誤用率を示している。この表から明らかなように、心理動詞に関する「が→を」の誤用率が最も高く、23.13%に達しているが、情感動詞の誤用率は10%未満とかなり低い。一方で、「に→が」の誤用数は最も少なく、誤用率も1割程度にすぎないが、情感動詞においては誤用率が半数を超えている。また、「を→が」の誤用率も「に→が」と同様に低く、わずか1割程度であり、情感動詞の誤用率も最も低く、5.1%にとどまっている。その他の混同パターンはいずれも誤用率が15%を超えている。「を→に」の誤用数が最も多いが、心理動詞に関する誤用率は16.2%にとどまっている。情感動詞の誤用率は約55%に達している。「に→を」の誤用数は比較的少ないが、心理動詞に関する誤用率は22.08%に達し、情感動詞に関しては誤用率が最も高く、約60%に達している。

これらのデータから、「が→を」と「に→を」の混同が起りやすいことがわかる。特に、心理動詞において「を」を使う場合に誤用が多いことが示されている。それに対し、「が」の誤用率は比較的lowく、学習者にとっては把握しやすいと考えられる。「に→を」の誤用数は多いが、心理動詞に関する誤用率はそれほど高くない。一方で、情感動詞に関するデータからは、「に」と「を」の誤用が特に多いことが示唆されている。特に、「に→を」と「を→に」の情感動詞における誤用率はどちらも5割を超えている。「に→が」の誤用率も50%を超えているが、誤用数自体は少ない。そのため、格助詞「に」と「を」の使い方が多様で、類似した用法があるために誤用が生じやすいと考えられる。

5.日本語の助詞と中国語の介詞の比較

日本語では助詞が付属辞として機能する一方、中国語では語順と介詞がその役割を果たす。例えば、「～によって」や「～のために」といった日本語の複合格助詞は、中国語では「通过」や「为了」といった介詞で表現される。これにより、日本語の複合格助詞を中国語の介詞と比較することで、言語間の機能的な対応関係を明確にすることができる。そのため、日本語の複合格助詞は中国語の介詞に対応し、対照研究しやすい。

5.1 馬小兵 (2002) の研究

馬小兵 (2002) は、単一の格助詞との交替現象について、一つ目の統語的特徴としていくつかの複合格助詞が単一の格助詞に置き換えられる場合が多いと

指摘している。「～について」「～に関して」と「を」、「～に対して」と「に」、「～にとって」と「に」、「～によって」と「に」などがある。本稿では主に「に対して」を焦点にあて、中国語学習者の「に」の過剰使用の原因を分析する。

5.1.1 「対」と「に対して」の用法の分類

表4 馬小兵 (2002) “对”と「に対して」の用法に関するまとめ

中国語 「对」 馬小兵 (2002 : 3)	「に対して」 馬小兵 (2002 : 4)
A. “表示方向”：「方向」を表す	A. 格助詞「に」とほぼ同じ文法的機能を持つもの
B. “表示対象目標”：「対象・目標」を表す	B. 格助詞「に」に内在する文法的機能を明確に特定し、文自体のあいまいさを排除する機能を持つもの
C. “表示对待关系”：「対処関係」を表す	C. 既存の格助詞ではまかないきれない格関係を表す機能を持つもの。
D. “表示涉及关系”：「関連関係」を表す	

上記のまとめによって、「に対して」は“对”と基本的な用法が一致しており、「に」の文法的な機能を持っていることがわかった。また、馬小兵 (2002) は対象を表す場合に「を」とも交換できる場合があることも指摘されている。

「を」と置換する例

(8a) 態度もぶえんりよで、ことに、かれの主張に対しては、尊重しない...
(沸き立つ群山・p400)

(8b) 態度もぶえんりよで、ことに、かれの主張を尊重しない...
馬小兵 (2002: p23)

(9a) 彼らは帰国、休養調整の命令に対しては、むしろ嫌がっている。」
(黒雪・p356)

(9b) 彼らは帰国、休養調整の命令をむしろ嫌がっている。」 (筆者)

馬小兵 (2002: 32) でまとめられた述語動詞²を見ると、これらは主に心理

² 馬小兵 (2002) 「を」と互換できるタイプの「に対して」の述語動詞について「援助する」「嫌がる」「遠慮する」「思う」「解釈する」「懐柔する」「感謝する」「勘違いする」「空襲する」「警戒する」「嫌悪する」「嫉妬する」「渋る」「心配する」「準備する」「信用する」「説得す

動詞であるため、心理動詞を用いる際には「を」と「に対して」を置き換えやすいと考えられる。

「に」と置換する例

(10a) 先生はあの学生の言動に対して、失望している。(筆者)

(10b) 先生はあの学生の言動に失望している。(筆者)

上記の例によって、「に対して」は中国語の“对”と基本的な用法が一致しており、「に」の文法的な機能を備えていることがわかる。また、対象を表す場合には「を」や「に」と置き換えられることもある。特に情感動詞を使用する際には、「を」や「に対して」の置き換えが可能である例が多く見られる。このように、「に対して」は文脈に応じて「を」や「に」と交換可能な表現であり、適切な選択が重要であることが確認された。

5.1.2 学習者の誤用傾向

馬小兵 (2002) は、「に対して」が行為動詞で一番よく使用され、存在動詞、形式動詞でも使用されることを指摘している。同様に、“对”も動作動詞、行為動詞、形式動詞、存在動詞に使用される。これらの動詞の意味役割は方向性を持ったため、「に」の過剰使用が多くなると考えられる。(「行為動詞」とは、具体的な動作を表さない非動作動詞を指す。傅雨賢他 (1997) は、「具体的な動作を表さず、示している意義はいつも抽象に偏っている。」と説明している。代表的なのは、“满意”(「満足する」)“佩服”(「敬服する」)“尊重”(「尊重する」)“同情”(「同情する」)“了解”(「了解する」)“熟悉”(「熟知する」)“喜欢”(「好む」) それによって、「に対して」と“对”がよく用いられている動詞は本稿で指している「情感動詞」「思考動詞」と同じものである。

(11) 国民は穏やかな生活をして、現状(を→に) 満足している。

(国民们过着安稳的生活，对现状感到满意。)

(学部4年生／学習歴3年半／滞日0／卒論)

(12) この本を読んでから、私は簡愛の不幸な遭遇(を→に) 同情します。

(读了这本书后，我对简爱的不幸遭遇感到同情。)

(学部1年生(上)／学習歴半年／滞日0／作文)

る」「調査する」「同情する」「とりなす」「批判する」「放任する」「容赦する」「喜ぶ」「評価する」「知る」などの動詞 が使用されている。

(13) 昔ながらのもの(に→を)一層好んでいる。

(对老式的东西更加喜欢了。) (M1 / 学習歴4年 / 滞日0 / 感想文)

(14) このような関係はちょうど“禅”の美学の観念に合っており、そのため白(に→を)尊重するのは“神”の思想が色彩観での体现だからだと言うことができる。

(这种关系正符合“禅”的美学观念，因此可以说对白色尊重是因为“神”的思想在色彩观中的体现。) (学部4年生 / 学習歴3年半 / 滞日0 / 卒論)

(15) もちろん、経済方面の基礎知識(に→を)理解することも必要です。

(当然，对经济方面的基础知识的理解也是必要的。)

(学部3年生(上) / 学習歴2年半 / 滞日0 / 作文)

上記の誤用例からわかるように、「同情する」や「満足する」といった情感動詞や「理解する」のような思考動詞を使用する際、中国語を母語とする学習者はしばしば「对」という介詞を用いて翻訳する傾向がある。そして、先行研究の結果からも、「に対して」という複合格助詞が情感動詞と共に頻繁に用いられることが確認されている。そのため、中国人学習者が情感動詞を使用する際、まず「に対して」を思い浮かべる可能性が高い。

さらに、「に対して」は「を」や「に」と置き換え可能であり、多くの教科書では「を」と「に」の学習順序が「に対して」よりも前に配置されている。このため、学習者が「を」と「に」を使用する頻度が「に対して」よりも高くなり、結果として情感動詞を使用する際には「を」や「に」の使用が優先される傾向にある。

また、情感動詞には方向性があり、方向を示す格助詞「に」も同様の機能を持つことため、学習者が「を」と「に」のどちらを選ぶか迷った場合、結果として「に」が選ばれる傾向が強い。そのため、コーパスデータにおいて「に」の誤用率が最も高い理由だと考えられる。

5.2 日本語の情感動詞の類型

清水(2007, 2014)は、心理動詞の格と構文的特徴について研究し、格標示が「ヲ格→ニ格→ガ格」へと移行することを指摘する。これは、心理動詞の動작성から状態性への移行を反映しているとする。また心理動詞を下記の表に示すように、3種類に分けている。

表5 清水(2007, 2014)における心理動詞の格による分類表

ニ格型心理動詞	二格誘因型心理動	焦る、照れる
---------	----------	--------

	詞	
	二格対象型心理動詞	憧れる
ヲ格型心理動詞		恨む、羨む
両用型心理動詞		悲しむ、悔やむ

清水（2007, 2014）の心理動詞の格標示に基づく分類方法は、わかりやすく三つに分けられる。しかし、二格型心理動詞に<誘因型>と<対象型>の両方を含む動詞を追加することで、中国語を母語とする日本語学習者にとって心理動詞の格助詞選択がより効果的になると考えられる。そこで、今研究では清水の分類に基づき、二格型心理動詞には両用型心理動詞が存在することにし、下記の表に示している。本研究で扱う情感動詞は清水の心理動詞と同一であるため、以下の分類を「情感動詞」と呼ぶことにする。

表6 本稿における情感動詞の格による分類表

二格型情感動詞	二格誘因型情感動詞	焦る、照れる
	二格対象型情感動詞	憧れる
	二格両用型情感動詞	飽きる
ヲ格型情感動詞		恨む、羨む
両用型情感動詞		悲しむ、悔やむ

(16) 日本人の心の深いところでは、平穏無事な生活（を→に）憧れている（二格対象型情感動詞）のではなからうか。

（学部4年生／学習歴3年半／滞日0／卒論）

(17) 特に何も味付けをしない刺身は日本人が味付けの特徴として素材の味（に→を）尊重する（ヲ格型情感動詞）ことをあらわしています。

（学部2年生／学習歴1年2ヵ月／滞日0／作文）

(16) と (17) のように、情感動詞を利用する際、どのタイプの動詞かを理解することで、格助詞の誤用が減ると推察される。

5.3 「を」と「に」の誤用関係図

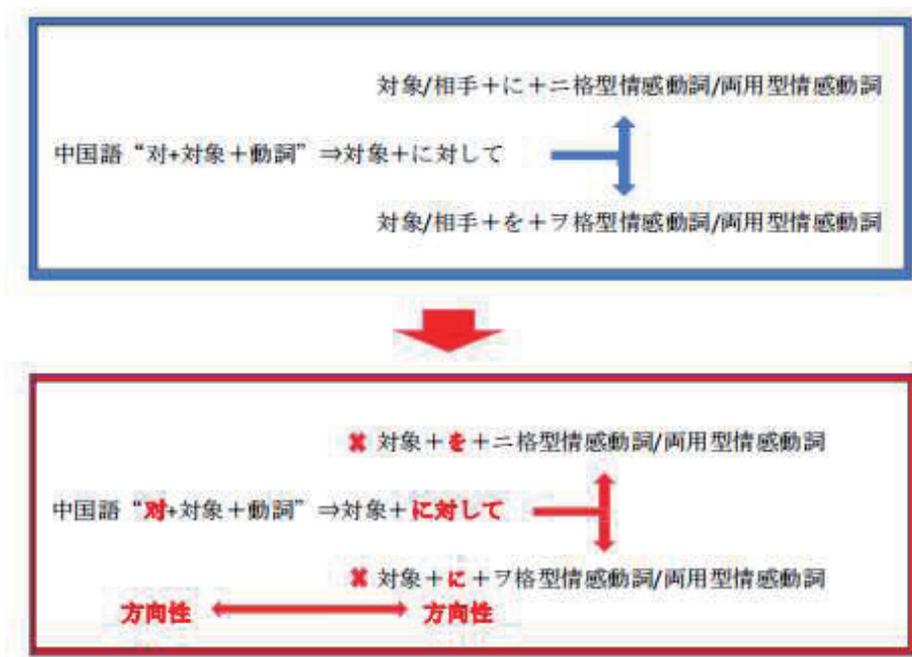


図1: 「を」と「に」の誤用関係

6 教材書の不備

6.1 形容詞と形容動詞の教授法

杉村 (2012) は「学習者が「が (→を)」という誤用を起こす理由は、中国語からの負の転移だけでなく、多様な要因によって「～は～が/だ/する」という構文が想起されることにも関係していると考えられる。同様に、「に」を使うべき場面で「が」が使われた誤用も、学習者の思考過程でまず「～は～が/だ」の構文が頭に浮かび、その後に動詞が追加された結果、「に」ではなく「が」が使用されたと推測される。」ということが指摘されている。また、日本語教育の初期段階において、学習者は形容詞を「主語は+対象が+形容詞+です」というパターンで学ぶことが多い。そのため、形容詞文の場合では、「～は～が～だ」の構文が運用しやすいと考えられる。

(18) 王さんは肉が嫌いです (小王不喜欢吃肉。)

(19) 林さんは犬が怖いです (林先生害怕狗。)

(『標準日本語』第11課)

こうした教授方法の代表例として、『標準日本語』などの教科書がある。このような形で形容詞を学ぶことにより、学習者は「が」を使用し、対象をマークすることに慣れていく。

形容词活形容动词做谓语（形容词と形容動詞は述語とする 筆者訳）

彼は納豆や梅干が嫌いです。（他讨厌纳豆和梅子。）

王さんは料理を作るのが下手です。（小王做菜不行。）

（『新編日語』第9課）

『新編日語』は、中国の大学で日本語専攻の教材として頻繁に使われている。この教材にも「～が形容詞/形容動詞」というパターンが載っているため、「嫌い」や「好き」などの形容動詞に「が」を使うことが習慣化していると考えられる。

また、「を」格型心理動詞には、「心配する」、「恐れる」、「嫌がる」、「好む」などがある。これらの動詞にはそれぞれ対応する形容詞が存在し、それぞれ以下のようになる。

心配する ⇔ 心配だ

恐れる ⇔ 恐ろしい

嫌がる ⇔ 嫌い

好む ⇔ 好きだ

6.2 「が」の過剰一般化

この「対象+が+形容詞」のパターンを学んだ学習者は、対応する心理動詞を使用する際にも同様のパターンを適用しようとする傾向がある。つまり、「が」を使用して動詞の対象をマークしようとするのだ。これが「が」の過剰一般化である。

(20) 子供時代に先生が厳しく指導したばかりに、コンクールのための練習（が→を）嫌がっていました。

（学部2年生（上）／学習歴1年3ヶ月／滞日0／作文）

(21) 祖母はあまり教育を受けていないから、私たちは彼女が人に騙されること（が→を）心配しています。

（学習歴1年／滞日0）

上記の内容をまとめていうと、「心配する」、「嫌がる」といった心理動詞を用いる際に、「が」の過剰一般化が生じる可能性が高いと考えられる。

6.3 心理動詞と心理形容詞の誤用関係図



図2：「心理動詞」と「心理形容詞」の誤用関係

形容詞や形容動詞の教授方法において、上記の教材が「主語＋対象＋が＋形容詞」というパターンを教えることによって、学習者は「が」を対象にマークする手段として過剰に一般化する傾向がある。この教授方法が、心理動詞を使用する際にも同様に「が」を使用する原因となり、誤用が生じやすくなると考えられる。特に、中国語を母語とする学習者においては、教材でこのようなパターンを習得することで、心理動詞と心理形容詞の誤用を引き起こす要因となることが示されている。そのため、教材の改訂や教授方法の見直しを行う必要があると考えられる。

7. 母語の負の転移

7.1 語順の変化による目的語と動詞の格関係の混乱

(22) それらの例によって、幸福とは好きなことに自分 (に→が) 満足するという感覚だと分かります。

(学部2年生(下) / 学習歴2年 / 滞日0 / 作文)

(23) しかし、インターネットショッピングで人 (に→が) 困ることがあるもよく聞いている。

(学部生3年生 / 学習歴2年半 / 滞日0年 / 作文)

(24) 本学期的、ある授業中に先生は中国語で”店長さん、ビール三本だ”といつて、皆さん (に→が) 驚いた。私立ちは鈴さにこの話を教えてあげた後、彼は日本からの先生に教えてあげた。

(学部2年生 / 学習歴1年半 / 滞日0 / 作文)

先述したように、「感動する」、「驚く」、「困る」と「満足する」は全部ニ格を取る動詞であることが分かった。これらの動詞の格助詞「に」の前の目的

語は基本的に「誘因」という意味役割を持っている。しかし、「に→が」コーパスのデータからみると、主語とするものは動詞の前の置き、「誘因」の意味役割を備えている目的語は文頭に着くと、「に→が」の誤用が生じやすいことが明らかになった。言い換えると、語順が変わることで、目的語と動詞の格関係が混乱している。例えば、「幸福とは好きなことに自分（に→が）満足する」や「インターネットショッピングで人（に→が）困ること」という表現を「自分」や「人」といった主語は目的語として使われてしまった。このような語順の変化により、正しい格関係が保てなくなる。

そのため、語順の変化が誤用を引き起こす原因は、中国語において語順が最も基本的な文法構造を示す手段であると考えられる。語順は変わると、意味は同一なものに見なされない。例えば、他打我/我打他（彼が私を殴る/私が彼を殴る）。例によってみると、語順が変わると、主語と目的語も変化する。一方、日本語では「彼を私が殴る」は文法的には正しく、意味も同じである。よって、誤用例の学習者は主語と目的語の関係に混乱していることが明らかになった。

7.2 「に→が」パターンでの二格型感情動詞の誤用関係図

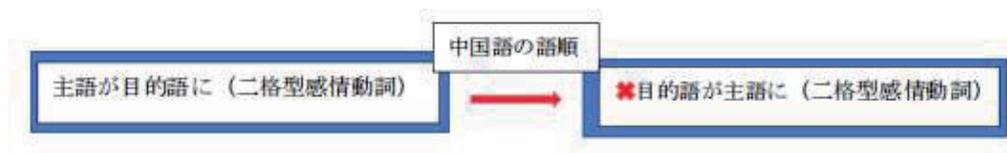


図3：「に→が」パターンでの二格型感情動詞の誤用関係

8 結論と今後の課題

本研究を通じて、中国語を母語とする日本語学習者における情感動詞の格助詞誤用の要因を明らかにすることができた。特に、「が→を」「に→を」の混同が生じやすいこと、教材の教授方法や母語の影響が誤用の原因となっていることが明らかになった。

今後の研究課題として、誤用を減少させるための具体的な教育方法の開発が挙げられる。また、他の動詞や形容詞についても同様の分析を行い、より包括的な誤用の要因を明らかにすることが求められる。

参考文献

日本語

工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキストー現代日本語の時間の

- 表現—』, ひつじ書房.
- 清水泰行 (2007) 「心理動詞の格と意味役割の対応・ずれ—「引用構文」における名詞句と引用節の意味関係から—」『日本文藝研究』 (58) 4, pp.23-39, 關西學院大學日本文學會.
- 清水泰行 (2014) 『現代語における感情用言の形式と意味』, 關西学院大学博士学位論文.
- 人民教育出版社・光村图书出版株式会社 (編) (2005) 『中日交流標準日本語 初級上』 人民教育出版社.
- 周平・陳小芬(2011) 『新編日語 (修訂本) 』 上海外語教育出版社.
- 杉村泰 (2012) 「コーパスから見た中国人日本語学習者の格助詞に関する問題点について」『名古屋大学大学院国際言語文化研究科』 (9) , p. 137-15
- 趙仲(2016) 『日本語心理動詞の内部機能変化と外部連続性—主体性関与を手掛かりとする語彙・文法的な総合研究—』, 北京外国語大学博士学位論文.
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味I』, くろしお出版.
- 張恒悦 (2023) 「心理動詞と“了”の共起関係について」外国語教育のフロンティア. p. 1-8
- 仁田義雄(1988) 「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』 17(5) , pp.34-37, 大修館書店.
- 仁田義雄 (2012) 「状態をめぐる」『属性叙述の世界』, pp.177-199, くろしお出版.
- 野田尚史 (1991) 「日本語の受動化と使役化の対称性」『文藝言語研究 言語篇』 (19) , pp.31-51,
- 堀川智也(1992) 「心理動詞のアスペクト」『言語文化部紀要』 (21) , pp.187-202, 北海道大学言語文化部紀要.
- 馬小兵 (2002) 「中国語の介詞“对”1) と日本語の複合格助詞「に対して」『文学部紀要』 文教大学文学部第 16-2 号
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』, くろしお出版.
- 松野美海 (2017) 『格交替を許容する日本語感情動詞の格体制についての研究』, 名古屋大学博士学位論文.
- 村上佳恵 (2010) 「感情動詞の補語についての一考察—「ニ」と「デ」について—」『學習院大學國語國文學會誌』 (53) , pp.110-95, 學習院大學國語國文學會.
- 森山新 (2008) 『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得—日本語教育に活かすために—』, ひつじ書房.

森山卓郎（1988）『日本語動詞述語文の研究』，明治書院.

森山卓郎（1996）「情動的感動詞考」『語文』（65），pp.51-62，大阪大学国文学研究室.

山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』，くろしお出版.

山岡政紀（2014）「文機能とアスペクトの相関をめぐる一考察—動詞テイル形の解釈を中心に—」『日本語コミュニケーション研究論集』（3），pp.1-8，日本語コミュニケーション研究会.

中国語

王红斌（1998）「绝对程度副词与心理动词组合后所出现的程度义空范畴」『烟台师范学院学报』1，pp.63-70.

王红斌（2002）「现代汉语心理动词的范围和类别」『晋东南师范专科学校学报』19（4），pp.62-64.

于康・林璋（2017）『日语格助词的偏误研究上』，浙江工商大学出版社.